

文化・芸術



「土沢風景」

1915年ごろ、油彩、カンバス
50・0センチ×60・5センチ

萬鉄五郎 (1885～1927年)

画家の個性や主観的な表現が尊重された大正時代の美術界において、萬鉄五郎はひととき異彩を放つ存在です。

フォービズムやキュービズム、抽象絵画など次々と生まれる欧州のモダンアートを積極的に取り入れ、その一方で伝統的な東洋画の造形を油彩画に応用しようと試みました。西洋と東洋、新しいものと古いものなど、異なる文化のせめぎあいの中で自身の芸術を追求した画家といえます。

1914年から1年半ほどの間、萬は故郷の岩手県土沢（現在の花巻市東和町）に住居を構え、制作活動に没頭しました。この土沢時代に制作された本作では、雪のない季節のどかな郷里の風景が骨太な筆致で表されています。

またこの時期、萬は土沢の風土を反映させるように風景を繰り返し描き、身近な自然にみなざるエネルギーやキュービズムの解釈をさまざまに表現しました。本作に見られる単純化された造形や平面的な構図にもその探究の跡がうかがえます。

(佐藤)

〈名画の扉〉

大川美術館コレクション展から